

高知 DMAT、愛媛県で災害支援活動	井原則之	2
高知乾癱市民公開講座	公文義雄	4
ジェイコブさん無事帰国!	林悟 / 日浦裕子	5
カルディオ遠隔モニタリングセンターの開設	要致嘉	8
整形外科 高知 ORP Seminar	衣笠清人	8
ICP ハンズオンセミナー	西本陽央	9
ふれあい看護体験	久保博美	11
近森病院附属看護学校新学校長、教務主任就任		12

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目 1-16 tel. 088-822-5231

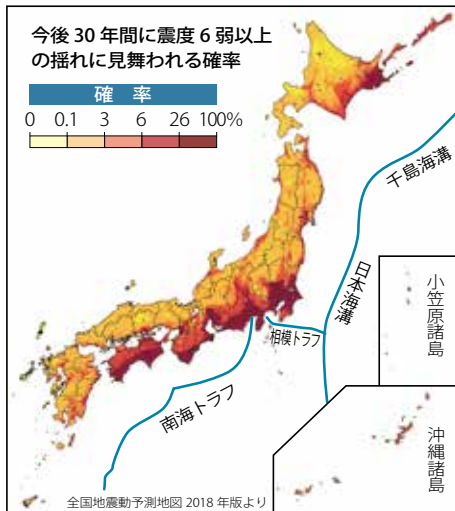
発行 ● 2018 年 8 月 25 日 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 寺田文彦



災害にも強い近森病院を目指して

近森病院救命救急センター
科長 三木 俊史

国が行う災害対応訓練の一つとして、南海トラフ地震を想定した「大規模地震時医療活動訓練」が四国4県と



大分・宮崎を舞台に、8月4日に行われました。

近森病院内では防災後の病院籠城を想定した災害対策本部の運営訓練とヘリによる物資支援・患者搬出訓練を行いました。

病院建物周辺および2Fまで津波で浸水したとの発災想定で、前回訓練の反省点も踏まえ本部のチームビルディングと情報伝達に焦点を当てた訓練を実施しました。今回は指揮命令系統の確立や組織図の各係の役割が明確となり、スムーズな本部運営はできましたが、各部署でさまざまな問題点も浮き彫りとなりました。



▼災害対策本部

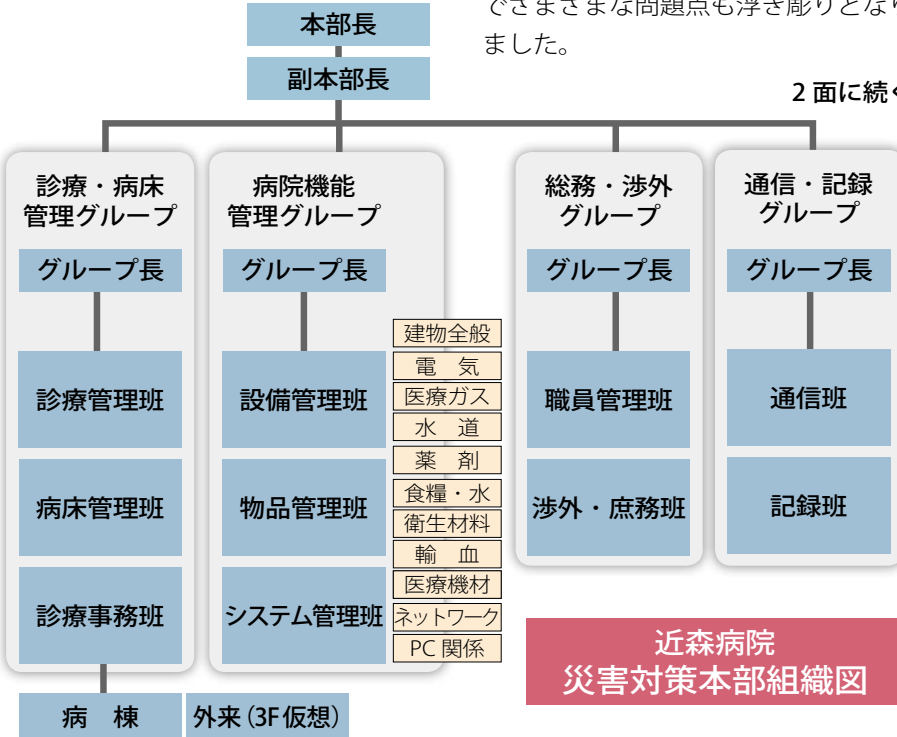
▼ Dr. ヘリで患者搬送・カルテ受渡し



▼支援物資をバケツリレーで運搬



2面に続く



近森病院
災害対策本部組織図

1面から続く

今回のような災害想定の場合、近森病院は救命救急センターとしての機能は破綻してしまいますが、まず患者救命を第一とした安全の確保と、籠城に耐えて生き抜くための近森病院とし

▼階段を患者搬送



ての体力が重要となります。今回の訓練で、ライフラインも含めた医療資源や設備、医療の能力などを参加者で共有でき、対策が必要な課題も上がりました。またエレベーターが使用出来ない状況でのヘリポートからのヘリでの患者搬出や、支援物資の搬入の訓練も行い、外部との連絡や情報の発信、また、災害時の院内でのDMATの役割なども課題として上がりました。

今後はそれらの課題を解決し、「災害にも強い近森病院」としてみんなで共有できるように災害時のマニュアル改定に取り組んでいきたいと考えています。

みき としふみ



▲衛星電話で通信写真
▼ベッドコントロール班



高知 DMAT として、 西日本豪雨災害に対して愛媛県で災害支援活動

近森病院救命救急センター
部長 井原 則之

7月7日早朝に高知県と愛媛県に対して気象庁から大雨特別警報が出ました。高知県の医療機関には大きな被害は出ませんでした。愛媛県の宇和島や八幡浜医療圏に洪水被害が出たことから、同9日から13日まで5日間、高知県からの要請により当院から5名がDMATとして派遣されました。

愛媛県立中央病院のDMAT活動拠点本部における本部長・本部活動、ついで八幡浜保健所における八幡浜保健医療調整本部における副本部長・本部活動を行いました。

いはら のりゆき

【DMAT隊員】 筆者井原医師
山脇久男看護師、安田幸平看護師
上総麻里子救急救命士
足立奈緒子薬剤師



▲7月9日20時過ぎ愛媛に向け出発
▼7月13日DMAT帰院を迎える



9月の歳時記

金木犀

近森病院臨床工学部
井上 奈緒

金木犀の香りはリラックス効果が高く、不安感やイライラを鎮めてくれるそうです。対照的に花は控えめで「謙虚・謙遜」という花言葉で例えられています。



学生時代家に帰ってくると、庭先に咲いた金木犀が甘い香りで迎えてくれ癒されました。実家を離れた今でもどこからともなくふわっと香ると、秋の訪れを感じるとともに懐かしさが込み上げます。

いのうえ なお



安全・安楽な透析治療の提供を目標に

透析看護認定看護師
近森病院透析室看護師 刈谷 博幸



近年、慢性腎臓病の患者数は推計1,300万人、透析患者数は32万人以上とされています。慢性腎臓病の患者数は日本人の8人に1人となり、腎不全領域に関わる看護師の役割も拡大し

てきていると思われます。透析看護認定看護師は、高知県にまだ2人しかおらず、この分野の仲間が増えることを切に願っています。

透析看護認定看護師の役割として、安全かつ安楽な透析治療の管理、長期療養生活におけるセルフケア支援および自己決定の支援があります。また、透析を受けている方だけでなく、慢性腎臓病の方すべてを対象と

し、生活指導や腎代替療法の説明なども行います。

近森病院透析室は、重症で入院治療を余儀なくされる急性期の血液浄化を積極的に対応すると共に、周辺で暮らしている方の維持透析の支援も行っています。

透析看護認定看護師として、慢性期のみならず、急性期から終末期に至るまで、幅広い看護が必要となります。さらに、安全かつ安楽な治療環境を提供するためにも、ケアの質を高める必要があります。日々進歩する医療技術についても、敏感に学習し取り入れながら、より良い治療を提供できるように取り組んでいます。

私たち透析室では、チーム一丸となり、透析治療を受けられる方たちを支えていくことを大切にしています。同じおもいを持った仲間と、これからも患者さんに関わっていきたいと思います。

かりや ひろゆき



私の趣味

読書の楽しみ

診療支援部医事課

主任 武内 香織

私の趣味は読書です。毎日就寝前に読んでいますが、面白いとつい読み進めてしまい、翌日寝不足で後悔することもしばしば…そんな読書の楽しみの一つに自分のお気に入りの作家を見つけることがあります。何気なく手に取った本が面白かった時が一番嬉しく、その作家にはまっています。

20年ぐらい前のことですが、初めて読んだ宮部みゆきの本が「火車」、その時の衝撃は忘れられません。とにかく面白く、グイグイ引き込まれてあっという間に読み終えたことを覚えています。他にも池井戸潤の「空飛ぶタイヤ」、今野敏の「ST警察庁特殊捜査班」、柚月裕子の「最後の証人」など、初めて出会って以来ファンになった作家は多く、刊行本を読み漁っています。

読書のもう一つの楽しみは、自分で登場人物のイメージキャラクター像を作れることです。しかし映像化されると、映画やドラマを見た後はシリーズ本を読んでも、演じた役者



の顔と声に変換されてしまいます。自分のイメージとあまりにもかけ離れている時はなんで？と勝手に憤慨したり、逆にピッタリの時はその役者を思い浮かべて改めて読み直したりします。

一生のうちどれぐらいの本を読めるかわかりませんが、これからも面白い本を見つけて読み続けていきたいと思います。

たけうち かおり

認定報告

従業員や家族をがんから守る優良事業所認定書



乾癬性関節炎

近森病院糖尿病・内分泌代謝内科

リウマチ・膠原病内科部長 公文 義雄



「くなりますよ」今、話題はRAからSpAに移りつつあります。

くもん よしたか

7月16日、「高知乾癬市民公開講座」で高知大学医学部皮膚科学講座教授である佐野栄紀先生と一緒に、お世話させていただきました。

皆さん、乾癬をご存知でしょうか？皮膚がフケ様に剥がれて落ち、発赤して掻痒も伴う皮膚の難病です。

実は10～30%に全身の関節炎を伴います。腰～首の脊椎が痛み、指（趾）、

踵～足全体が腫れるのも特徴です。腱などの炎症が主病態で、関節リウマチ(RA)とは異なる脊椎関節炎(SpA)という病気の仲間です。リウマチ医にもまだ十分周知されておらず、早期診断には程遠い状況です。

最近乾癬性関節炎のご紹介が増えました。「やっとここに辿り着きました」の涙声に、「大丈夫ですよ、良



近森病院泌尿器科 本棚 & ディスプレイを設置

外来センター泌尿器科待合に新しく本棚とディスプレイを設置しました。お待ちの間、どうぞご覧ください！



リレー エッセイ

ブラボーアイス

近森病院リハビリテーション部

作業療法士 西森 千明

私の地元（佐川町）には子供の頃からブラボーアイスというアイスがあります。ブラボーという名前のアイス聞いてどのようなアイスイメージするでしょうか？

私の地元ではどの駄菓子屋さんにも必ずブラボーアイスはあるほどメジャーなアイスのため、全国規模のアイスだと思っていましたがそうではありませんでした。あっさりとしたミルク味にチョコでコーティングされたアイスです。棒アイスで、棒に「7」と書いていれば当たりで、「7」の数だけアイスが貰えます。「777」が最高です。当時は60円で買っていたアイスですが、今は消費税増税と共に税込み86円まで値上がってしま



した。100円出してお釣りがくる満足できるアイスです。子供のとき、アイスのお遣いを頼まれると私はいつも自分の分はブラボーアイスを選んでいました。

世の中にはたくさんのアイスがあり、新商品は毎年のように出ます。今までも色々なアイスを食べましたが、いつも最後は原点に帰りブラボーアイスを食べたくになります。夏



は川や海に泳ぎに行ったり、バーベキューや花火、ビアガーデン、よさこい祭り等々楽しいことがたくさんあります。しかし、夏がくる度に一回は食べないと夏を感じるできません。ブラボーアイスは食べると冷たいけれど暖かい味。故郷の味。思い出の味です。ぜひ一度食べてみて下さい。

にしもり ちあき

脳動静脈奇形による脳室内出血から回復し、 ジェイコブさん無事帰国！

1月、旅行中に脳室内出血をおこし近森病院で入院治療、近森リハビリ病院でリハビリを行ったジェイコブさん（オーストラリア人男性 38歳）。クラウドファンディングで治療費を募り、5月に無事帰国することとなり、マスコミでも取り上げられました。医学的にも稀で重い脳動静脈奇形による脳室内出血を海外で発症し帰国するまでの4カ月間について、病院としてのどの様に治療・リハビリテーションを行ったのか、それぞれの担当医が振り返りを行いました。

1月23日 帰国予定日に発症、近森病院に救急搬送

（病名：脳室内出血／担当医：林悟）ER→ICU入室

1月26、29日 脳動静脈奇形に対する血管内治療、開頭手術により病変を摘出

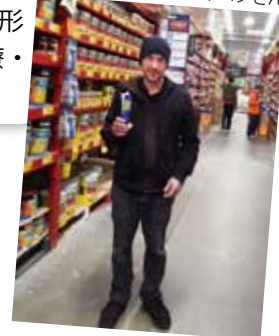
2月7日 ICUからSCU（脳卒中集中治療室）へ転棟

2月27日 近森病院→近森リハビリテーション病院へ転院（担当医：日浦裕子）

5月22日 退院、帰国（担当医日浦、付き添い）。その後キャンベラ病院へ入院。

6月13日 キャンベラ病院退院。 ※現在は自宅近くのリハビリ病院へ通院中

▼元気になったジェイコブさん



救命を第一に考えて

近森病院脳神経外科

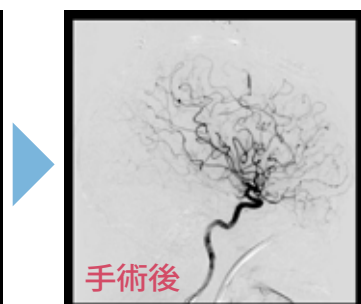
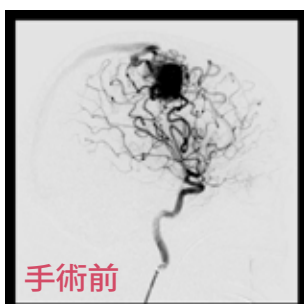
部長 林 悟

突然の頭痛ののちに意識を失い、ERへ救急搬入となりました。来院時は重度の意識障害で手足の動きがない状態でした。呼吸状態も悪く、ERにて気道を確保する気管内挿管と呼吸器も必要でした。頭部CTでは脳の中の脳室に出血が広がっており、38歳の年齢を考えると頻度の高い通常の脳出血とは異なる原因が疑われました。CT angiographyにて頭蓋内血管の精査を緊急に行くと、若年者の脳出血の原因になりうる脳動静脈奇形が右前頭葉にあり、これが出血の原因と判断しました。まずは、救命を第一に考えて、脳室にチューブを挿入して脳圧を下げる手術を行いました。

一旦、全身管理を行ったのちに、血管撮影にて脳動静脈奇形の血流の状態を詳しく調べました（写真左）。血管の塊であるナイダスの大きさは約3cmで、ナイダスに流れ込む主な動脈が4本あり、治療が困難な病態であるものの手術は可能と判断しました。まずは血管内治療にて、ナイダスに流れ込む動脈を塞栓物質で閉塞して血流を減らした後に、開頭手術で病変を摘出する方法をとりました。手術時間は長時間に及びましたが無事に終了し、術後の血管撮影でも脳動静脈奇形の消失を確認しました（写真右）。

当初見られた意識障害は次第に改善し、左半身麻痺と高次脳機能障害は残りましたが、食事も可能な状態になり、約1カ月の入院の後に近森リハビリテーション病院へ転院となりました。

はやし さとる

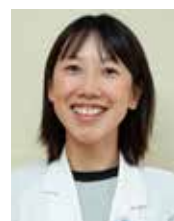


一カ月で歩いてお花見に

近森リハビリテーション病院

リハビリテーション科

科長 日浦 裕子



近森リハビリテーション病院へ入院されたのは、寒い時期でした。本人はまだぼんやりしており、左上下肢の麻痺には意識が向かず、すぐ疲れてベッドに横になる、食事をすると薬の副作用で吐いてしまうという状況でした。

数カ月に及ぶリハ入院、異国で英語に堪能なものがない中、どうなることやら…と心配でした。案の定、入院当初は、コミュニケーションの難しさに加え、生活習慣の違いに戸惑われていましたが、以前日本語を勉強されていたことや、おおらかな性格もあって、徐々に病棟生活にも慣れ、退院前にはスタッフと日本語で話ができるようになっていました。

左片麻痺の経過も良好で、左手は日常生活でも使えるレベルになり、下肢に関しても3月末には小川町公園まで歩いて花見に行けるまでになっていました。舞い散る桜はとても印象的だったそうで、喜んでいただけてうれしかったです。

注意力や記憶力に関しては、まだまだ見守りが必要ですが、長期的には改善していくと考えています。近森病院へ入院してから4カ月後、初夏の5月22日、独歩で退院、帰国されました。ご家族が空路移動中のけいれん発作を危険し医師の同伴を希望されたため、オーストラリア・キャンベラまでの帰路に同行しました。

24時間の移動中、待望の帰国とあってリラックスしているジェイコブさんとは反対に、わたしはいつけいれんが起こっても対応できるようにと酸素と注射を準備して緊張し通しました。

道中何事もなく、無事にキャンベラ病院のリハビリテーション病棟へ入院、身体状況の確認とリハビリの後、初冬の6月13日に退院、現在は自宅療養しながら通院リハビリを継続されています。

ひうら ゆうこ



よさこいの楽しさを伝えたい

よさこい実行委員会代表／近森病院 SCU 看護師 日浦 由美子

人と人が繋がる縁を大切に、よさこいの楽しさを伝えたいという想いをもち、9年目の「ちかもり」よさこいを継続する事が出来ました。今年はニュースでも「猛暑」が取り上げられていた中、病院ならではの救護体制のおかげで、大きな事故や怪我人が出る事なく2日間を楽しめる事が出来ました。協賛企業や友人参加の踊り子さんも増え、また、近森会グループとしてチームを公認して頂いたおかげで、職員のスタッフとしての参加もあり、たくさんの方との出会いが生まれました。

来年は10周年！踊り子さんからは、来年も必ず踊ります！という声や、当日見に来てくれていたお客さんから、来年ちかもりで踊らせて下さい！という声を頂き、ちかもりらしい素晴らしいチームになっているなど実感しています。

樽募金へ協力いただいた職員の皆さん、協賛企業の皆さん、チーム作りに関係してくださった業者の皆さん、すべての方々に心より感謝しています。

ひうら ゆみこ

撮影協力：見元尚 他 右写真中央 代表日浦▶



ちかもり 2018

よさこい祭り第65回記念、ブルーインパルス展示飛行



カルディオ遠隔モニタリングセンターの開設と 条件付MRI対応ペースメーカー患者さんの検査体制の見直しについて

救急病院としての責任と意地

近森病院循環器内科

部長 要 致嘉



100人／年以上にデバイス

(心臓植え込み機器) 治療が

当院では、毎年100人以上の患者さんにデバイス(心臓植え込み機器)による不整脈治療を行っています。近年、デバイスの進歩は目覚ましく、デバイスの作動状況や不整脈治療に加えて遠隔モニタリング機能という特別な機能も搭載されるようになりました。

遠隔モニタリング機能で

情報が自宅から病院へ

遠隔モニタリング機能とは、デバイスから収集された情報を携帯電話回線を介して、定期もしくは異常時に自宅送信機から各社専用のサービスセンターへ情報送信するシステムです。

私たち医療機関はインターネットを通じて送信された情報を取得し、一人一人の患者さんに情報を還元していきます。つまり、このシステムを活用することによって、何らかの変化を「早期に発見、対処、治療」することがで

きるようになります。

MRI撮影対応デバイス機器の登場

また、ご存知の方も多いと思いますが、2012年10月からは条件付きMRI対応機種が使用可能となりました。認定施設の取得とMRI撮影が可能であるという条件を満たしていれば、医師立ち会いのもとMRI検査を行うことができます。

MRI対応デバイスの撮影が

24時間対応へ

デバイス治療は、手術をしてから長い本当のお付き合いが始まります。複雑かつ高度化するデバイス治療において、多くの患者さんが出入りする



救急病院で、一人一人に質の高い、細かな対応を継続させていただくのは、正直、大変です。

今回、カルディオ遠隔モニタリングセンターの開設にあたって、各部署の医師・看護師・臨床工学技士を含め、院内のさまざまな職種スタッフに関わってもらうことにより、一人一人のデバイス情報を共有し質の高い継続した治療を提供させていただけるものと思います。

また、その最初の取り組みとして、2018年9月より、平日・日中だけのMRI対応デバイス患者さんのMRI検査を、週末・夜間・緊急時まで対応させていただくことになりました。たくさんの方はできませんが、少しずつ改善していけたらと思います。何よりも患者さんのために。

スタッフを代表して。

かなめ のりよし

第6回高知 ORP Seminar

2018年7月21日

オペ室ナースの介助技術の向上を目的に

近森病院整形外科

統括部長 衣笠 清人



7月21日(土)の午後、第6回高知ORP Seminarを開催しました。これは元々近森病院のオペ室ナースの整形外科外傷手術に対する介助技術の向上を目的として5年前に始めたものです。ずっと昔からAOコースというセミナーの中にナースコースがあるので



すが、参加料も高いですし、期間が長く、座学も長時間に及びますので彼等の多くにとって少し敷居が高い印象がありました。

近森病院手術室は圧倒的に整形外科手術が多く、すべてのナースが介助につく必要があります。そこで座学を短く、ワークショップの時間を多くして、



基本的な手技から実戦で症例数の多い手技を中心に、なぜ、どうして、という部分を解説しながら実際に模擬骨に手術を実行してもらう、というセミナーを企画しました。

すると、この噂を聞いた他病院の方たちから自分たちも参加できないかという問い合わせが入り、もちろんOK!としましたところ、今年は総勢35名、その内四国4県の他病院からの参加者が80%を占めるという盛況となりました。参加者の反応も良好なので今後も続けていきたいと思っています。

きぬがさ きよと

頭蓋内圧センサーのハンズオンセミナーに 56 人の参加



近森病院脳神経外科 科長 西本 陽央



医療の世界では新しい治療法、薬、治療器具が頻繁に開発されています。こうした新しい治療器具や薬は勉強会などで説明を受ける機会も多い反面、既に当たり前になっている器具や薬は説明を聞いたり、勉強する機会が意外と少ないのではないのでしょうか。

そこで、今まで当たり前に使っていたのに、詳しい説明を聞いたことがなかったものについてもちゃんと勉強会をしてみよう！という趣旨で、「頭蓋内圧センサーのハンズオンセミナー」を開催しました。当日は56人もの参加がありました。

改めて勉強することで新たな発見もあり、知識がより深くなりました。こうした勉強会を定期的で開催できればいいな、と思っています。参加して下さった皆さま、ご協力いただいた業者の皆さま、ありがとうございました。にしもと よう

第120回日本消化器内視鏡学会四国支部例会・第109回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 2018年6月23、24日

研修医・専修医優秀演題賞

研修医奨励賞

原因不明の 下痢が続く時は…

学会での初受賞！



近森病院消化器内科
矢野 慶太郎



近森病院初期研修医
二年次 町田 彩佳



「当科における lymphocytic colitis7 症例の検討」という演題で発表してきました。比較的新しい概念の疾患で、lymphocytic colitis ? 和訳するとリンパ球性大腸炎? なにそれ? と思われる方も多いと思います。原因不明の慢性下痢を呈し、大腸の生検組織を顕微鏡で観察することで診断できますが、未解明な点も多い疾患です。

まだ知名度も低い病気ということもあり、診断されずに下痢で困っている方もいるかもしれません。今後も症例検討や学会発表を通して、そんな方の役に立てるように臨床でも活かしていきたいです。 やの けいたろう

今回、第109回日本消化器病学会四国支部例会にて、日本消化器病学会研修医奨励賞をいただきました。

学会発表の準備にあたり、私自身が幡多地域で研修中であり準備に戸惑うこともありましたが、指導医の先生のご協力とご指導もあって、準備もでき、当日は緊張しながらも無事に発表することができました。

指導していただいた岡田先生、榮枝先生をはじめ、ポスター作成にご協力していただいた方々、ありがとうございました。

まちだ あやか



ニューフェイス

①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

Blank area for New Faces submissions.

人の動き 敬称略

Blank area for 'People's Movement' news.



近森オルソリハビリテーション病院 ★★★★ 夏祭り ★★★★★

近森オルソリハ病院の恒例の夏祭りは2018年8月18日(土曜日)に開催されました。

Blank area for 'People's Movement' news.

おめでとう

Blank area for congratulatory messages.

Blank area for congratulatory messages.

2018年7月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,221人
新入院患者数	1,067人
退院患者数	1,043人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	13.46日
地域医療支援病院紹介率	80.77%
地域医療支援病院逆紹介率	175.57%
救急車搬入件数	604件
うち入院件数	290件
手術件数	475件
うち手術室実施	287件
うち全身麻酔件数	181件

● 2018年7月 県外出張件数 ●
件数 62件 延べ人数 94名

編集室通信

よさこいが終わり、今年の夏もいよいよ終わったなと実感しています。今年新しい事にチャレンジする年と個人的に決めています、昨年としている事がほとんど変わっていないという事態に・・・。

今年は秋・冬にも筋トレを実践して、不摂生な時期を乗り越えたいと思います。食べ物が美味しい季節になりますから・・・

夢をつなぐお手伝い

近森病院看護部キャリア開発課

看護師長 久保 博美

7月26日、8月2日の両日、看護職次世代育成を目的とした高知県看護協会事業「ふれあい看護体験」にて高校生32名を受け入れました。

看護スタッフと同じユニフォームを着用し、病棟体験や手術室・救命救急センターの見学、近森病院附属看護学校での人体模型によるフィジカルアセスメントを体験しました。

感想文に「患者さんひとりひとりに

あわせて対応している」「担当者がとても親切で薬やチューブの種類を教えてください」「光を当てたときに瞳孔が開いたり異常時は左右が違う」など体験を綴り、「とてもやりがいのある仕事だと感じた」「絶対看護師になります!」と、力強いメッセージを残してくれました。

いつの日か看護職になった参加者に会えることを楽しみにしています。

くぼ ひろみ



▼手術室スタッフが撮影、「大感激!」

近森病院 地域医療連携ガイド 2018年度版ができました。

医師の専門分野や認定資格、趣味などが掲載されています。顔の見える連携の資料として地域の医療機関でご活用いただければ幸いです。

2018年度版



ハッスル研修医

反省はあっても後悔のないよう

近森病院
初期研修医 河瀬 弘代



大阪府吹田市出身で、大学から高知に来ました。音楽と身体を動かすのが好きで、大学時代はダンス部に所属していました。高知のよさこいもとても魅力的で、大学のチームで2回ほど参加しましたが、2回とも暑さに倒れそうになり、以来毎年クーラーの効いた部屋でテレビの前で楽しんでいます。

近森病院での研修が始まりもう4カ月目に入りました。大学の先輩にいただいた「反省はあっても後悔のない人生を」の言葉を胸に、日々失敗と反省を繰り返してご迷惑をおかけすることが絶えませんが、その度に優しいコメディカルの皆さまや指導して下さる先生方に支えられ、充実した研修を送らせて頂いています。少しずつですが出来ることも増え、この前は先生に縫合を褒めていただいてにやけていました。

これからもなるべく後悔の少ないよう、よく学び、よく遊び、ときどき休みながら自分の将来像を探し、追い求めていきたいと思っています。

かわせ ひろよ

出張なんでも鑑定団ならぬ
出張なんでも
相談会 in あさひ
～泌尿器科の巻～ 無料

9/9 日 会・こうち男女共同参画
場・センターソーレ

14:00～ ミニ講義
「排尿障害について」

※ミニ講義のみの参加は
申込不要。人数制限なし。

14:20～ 医師に聞く
個別相談会

おひとり5-10分程度
先着約20名まで

個別相談会の参加を希望される場合は、9月7日(金)
17:00までに近森病院広報係までご連絡ください。

学びの基本は対面教育にあり

日々精進！！

近森病院附属看護学校校長
近森病院神経内科主任部長

山崎 正博



近森病院附属看護学校
教務主任 西本 清香



教育の大きな目的の一つに社会で活躍できる有能な人材養成があります。看護教育では、臨床現場ですぐに生かせる知識と実技が要求されます。看護師の仕事の基本はコミュニケーション力です。

今回校長就任に当たりその習得のために、読み書きの基本である日本語を大切に教育と接遇を中心に据えた対面教育の充実を考えています。今後、複雑・高度化する医療の中では実践的な持続できる学習能力が重要になります。多種多様な機会を通じて基礎力、応用力を養い、自分の頭で考え判断できる人材育成を考えています。

近森会の職員には講義や実習を通じて多大な恩恵を受けています。臨床現場と看護学校を結ぶ連絡役あるいは潤滑油役として職務に専念したいと考えています。ご支援をお願いするとともに良い人材を輩出してくれている、との声が聞こえてくるよう尽力します。

やまさき まさひろ

近森病院附属看護学校の開校準備のため、病院から看護学校に異動となり早4年がたちました。新しいものを作り上げる楽しさと教育の難しさを実感していますが、学生たちの頑張りを目の当たりにして益々頑張らねばと、自分を奮い立たせている毎日です。

看護学校は9月より校長先生も代わり、新しい体制でのスタートとなります。看護学校の理念にあるように地域社会に貢献できる看護師の育成を目指して、これからも日々精進していきます。今後も変わらず看護学校の応援をよろしくお願いします。

にしもと きよか

● 近森病院附属看護学校通信 29 ●

当校の学生のいいところ紹介

近森病院附属看護学校

専任教員 塩崎 直子



近森病院附属看護学校の学生のいいところは、と聞かれてまず言えることは、ここぞというところで出せる底力のある学生が多いということです。

今年初めて受験した看護師国家試験結果を見てください。4月当初不安

だった教員たちを尻目に、グループで励ましあい、教えあい、最後まで頑張りぬいて満足できる成績を上げました。また、看護師を目指すモチベーションの高い学生が目立ち、授業や演習で他の学生へのいい刺激となっています。そして男女を問わず

性格的に優しい学生が多く、看護の現場で患者の気持ちを理解できる優れた人材になると思われます。

これら学生のいいところを伸ばし、近森病院附属看護学校の新たな校風を、培っていきたいと思います。

しおさき なおこ

人事考課研修

2018年7月19、20日

評価者研修に 176 名、被評価者研修に 87 名が参加

効果的な人事考課制度の運用を目指し、講師に株式会社フロインドの下田

静香先生をお迎えし、人事考課研修を実施して7年目になります。

今年は評価者研修に176名、被評価者研修に87名が参加しました。

